

生活事業の生活サービスセンター・住宅センター 県内全域 ☎ 0985-29-5800 県北地域 ☎ 0982-33-6215 県南地域 ☎ 0986-23-4416
電話番号 旅行センター ☎ 0985-28-0568 / 共済センター ☎ 0985-29-3700 / コープBOOK・CD・DVDセンター ☎ 0985-28-6611

特集

わが家の災害対策

なるべく満タンに

都城市の組合員さん(50代)
食料や水の備蓄もですが、車のガソリンをなるべく満タンにして避難や車中泊に備えています。ガソリンが入れない・移動ができない状況は、想像するだけで不安ですね。

義父の教え

日南市 M・Nさん(60代)
リュックの中には、水・保存食・日用品など。寝室の上の方にヘルメット・さっと履ける靴・LED 小型ライトなどを置いています。また、大雨の時は外回りの溝蓋をあけておきます。亡き義父の教えです。

発電機

日向市の組合員さん(30代)
発電機を1台用意しています。災害は起こらないに越したことはないですが、万が一のために自分でできる準備は大事ですよ。台風の時などに停電するので、1～2年に1度は使っています。

9月1日は防災の日。組合員さんから寄せられた、「わが家の災害対策」をご紹介します。思い立ったが吉日。備えあれば憂いなし。できることから始めましょう。



食器棚の整理

宮崎市 K・Sさん(50代)
去年や1月の地震を経て、食器棚の整理をしました。不安定に重ねていたずっと使っていない皿やコップを処分。断捨離にもなり、しっかりスペースを取ることによって動きにくくなり、安定感が増しました。本当に備えあれば憂いなし、ですよ。



太陽光で充電できるライト

門川町 N・Kさん(50代)
家族2人分の水と食料(ビスケット缶・えいようかんなど)・ブルーシート・卓上コンロ・交換用ガスなどなど。まずは3日間を耐えられるようにしています。最近購入したのが、太陽光で充電できるラジオ付きのライト!携帯の充電もできる優れものです。まだ使ってはいませんが…。

4つの対策

- その1. 日中、家族がバラバラの時に災害が起きた場合、ココの場所に集合と時々確認しあっている。
- その2. 海水(水と塩)で発電する道具を持っており、緊急時に使えるよう置いている。
- その3. 水難を避けるために浮き具を持っている。
- その4. ガスの元栓は毎度閉めるようにしている。そのほか、水や保存食は人並みになりますが、もう一度見直そうと思います。

非常時持ち出し品

貴重品類

- ☐ 現金
- ☐ 預金通帳
- ☐ 印鑑
- ☐ 保険証
- ☐ 免許証

避難用具

- ☐ 懐中電灯
- ☐ 携帯ラジオ
- ☐ 予備の乾電池
- ☐ ヘルメットや防災ずきん

生活用品

- ☐ 充電器
- ☐ 笛
- ☐ 厚手の手袋
- ☐ 毛布
- ☐ 缶切り
- ☐ ライター・マッチ
- ☐ ナイフ
- ☐ 携帯用トイレ
- ☐ 歯ブラシ
- ☐ トイレットペーパー

感染症対策物品

- ☐ マスク
- ☐ 手指消毒用アルコール
- ☐ 石けん・ハンドソープ
- ☐ ウェットティッシュ
- ☐ 体温計

救急用具

- ☐ 救急セット(絆創膏・消毒液なども)
- ☐ 胃腸薬・便秘薬・持病の薬
- ☐ お薬手帳
- ☐ 生理用品

非常食品

- ☐ 乾パン
- ☐ 缶詰
- ☐ 栄養補助食品
- ☐ 飴・チョコレート
- ☐ 飲料水

衣料品

- ☐ 下着・靴下
- ☐ 長袖・長ズボン
- ☐ 防寒用ジャケット
- ☐ 雨具

その他

- ☐ 携帯用カイロ
- (※乳幼児がいる場合)
- ☐ 粉ミルク・紙おむつ

※避難するときにまず持ち出すべきものです。非常用持ち出し袋に入れ、持ち出しやすい場所に置いておきましょう(確認チェック用としてご活用ください)。

備蓄品チェックシート

※災害復旧までの数日間を自足できるように準備しておくものです。災害後に取りに行けるよう、倉庫や車のトランクなどに分けて備蓄しておくとう便利です。

食料品

- ☐ レトルト食品(ごはん・おかゆなど)・アルファ米
- ☐ インスタントラーメン・カップみそ汁
- ☐ 飲料水(1日3ℓが目安です)



消費期限の確認も忘れずおこなう。

生活用品

- ☐ 給用水ポリタンク
- ☐ カセットコンロ・カセットボンベ
- ☐ ティッシュペーパー・ウェットティッシュ
- ☐ ラップ
- ☐ 紙皿・紙コップ・割り箸
- ☐ 歯ブラシ
- ☐ 簡易トイレ
- ☐ 水のいらないシャンプー
- ☐ ビニール袋
- ☐ ロープ
- ☐ 工具セット
- ☐ ほうき・ちりとり
- ☐ ランタン
- ☐ 長靴



消防庁ホームページより

※国の中央防災会議の報告書では、南海トラフ巨大地震対策として「家庭用備蓄は1週間分以上必要とされる」と報告されています。

地震から身を守るポイント

いつ起こるかもしれない地震。グラツときたその瞬間にどのような行動をとるかが、身の安全を守るカギです。あわてず落ち着いて行動できるようにしておきたいものです。

1 グラツときたら身の安全確保

- ◇大きな揺れの間は丈夫なテーブルや机の下に身を伏せる。
- ◇近くに机がないときは、座布団などで頭を保護する。
- ◇大揺れの場合、家具類が倒れたり窓ガラスが割れたりするので、そばに近づかない。

2 すばやい消火、火の始末

- ◇小さな揺れでも火を消す習慣をつける。
- ◇動転した気持ちを落ち着かせるため、「地震だ、火を消せ!」と声をかけ周囲の人にも火を消す行動意識を呼び起こす。
- ◇地震の時、消火のタイミングは3度ある。
(第1…揺れを感じたとき
第2…大揺れがおさまった時
第3…出火したとき)

3 窓や戸を開け、出口を確認

- ◇高層マンションなどでは、ドアが歪み、開かなくなると部屋に閉じ込められる恐れがあるので、地震が発生したら、いつでも外へ避難できるように出口を確認しておく。
- ◇開けたドアが再び閉まらないように、手近なものを挟み込む。

4 落下物に注意! あわてて外に飛び出さない

- ◇あわてて外に飛び出すと、瓦や窓ガラス、看板などが落ちてきて思わぬケガをすることがある。
- ◇周囲の状況をよく確かめ、落ち着いて行動する。

5 室内のガラスの破片に気をつけよう

- ◇割れたガラスの破片による事故を防ぐため、裸足では歩かない。
- ◇後片付けする時には、厚手の手袋をする。

6 確かめ合うわが家の安全、隣の安否

- ◇わが家の安全を確認したら、隣近所の安否を確認し、お互いに助け合う。

7 協力し合って救出・救護

- ◇家屋の倒壊や家具類の転倒・落下で下敷きになった人々を地域ぐるみで救出し、けが人がいたら応急手当を行う。

8 避難の前に安全確保電気・ガス

- ◇避難する前には、電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を閉め、電気・ガスによる火災の発生を防止する。

9 門や塀には近寄らない

- ◇外にいる時、グラツときたらブロックなどの塀には近寄らない。近くにいたらすぐに離れる。

10 正しい情報・確かな行動

- ◇ラジオ・テレビや消防署・区市町村などからの情報を得る。
- ◇デマや根拠のないうわさで惑わされたりしない。

全国生協役職員共済機関誌より

普段の生活でできること

家庭での防災会議

地震の時に家族が慌てずに行動できるよう、日頃から話し合いを。

- 時間帯や誰が在宅しているかなど、様々なケースを想定し話し合っておきましょう。
- 想定したケースごとに分担を決めるほか、高齢者や乳幼児など、家族構成も考慮して相談しておきましょう。各自治体のハザードマップも確認しましょう。

家の中でどこが一番安全か?

避難場所・避難経路はどこか?
非常用持ち出し袋はどこに置いてあるか?

- 住所・氏名・連絡先や血液型などの自分の情報を記載した避難カードを作成し、普段から携帯しましょう。



台風対策

★ 台風が来る前に・・・

- 家の各所を点検し、修理や補強をしておく。
- 窓ガラスなどは、養生テープなどで補強する。雨戸やシャッターがあれば閉めておく。
- テレビやBSのアンテナなどは針金で補強する。
- 排水溝にたまっているゴミ・泥などを掃除して、家の周りの排水をよくする。
- 浸水の恐れがある低地では、家具・電気製品などをなるべく高い場所に置くようにする。
- 停電に備えて、懐中電灯や携帯ラジオなどを家族で決めた場所に置いておく。電池の確認も忘れずにしておく。
- 非常時持ち出し品を揃えて出しやすい場所に置いておく。
- 最寄りの避難所・避難経路を確認しておく。土砂崩れなどが起きる危険がある場所も確認しておく。



コープみやざきのホームページに

台風・災害時情報掲示板を準備しています

災害時に、組合員さんへ営業の案内をする方法の1つとして、ホームページ上に『台風・災害時情報掲示板』を準備しています。台風や災害が発生した場合、生協側から支所やお店などの営業の案内を掲示します。

※台風・災害時のみ表示されます。



ホームページアドレス
<https://www.miyazaki.coop>



台風6号に伴う営業について

赤いボタンをクリック!

コープ共済の案内をしています。